

# 会話におけるturn-takingと 情報共有のイニシアティブの関係

黒沼祐佳

キーワード：イニシアティブ、turn-taking、下位の話題、情報の送信者・受信者、発話の機能

## 1. はじめに

会話参加者は平等にturnを取る権利を持つと考えられるが、実際の会話を概観してみると、turnが均等には分担されていない会話が多数ある。また、同じ参加者による会話の中でもturnの取り方の傾向が変わる場合がある。このようなturn-takingの分布の違いは何によって生じるのであろうか。

turn-takingを分析する際、それに関わる個々の発話の関係や発話の内部構造に視点を置くことが多い。この場合、turn-takingのミクロなメカニズムについての説明はできても、上記のような問題についての説明はできない。

本稿では、下位の話題というより大きな構造に着目し、そこにおける「イニシアティブ1」という観点をを用いて考察を行なうことにより、turn-takingの分布の違いに説明を与えたいと考える。

## 2. イニシアティブ

### 2. 1 イニシアティブの定義

会話は会話参加者の情報の共有をめざす活動ととらえることができ、そこでは、ある参加者が送信者となって情報を提供し、他は受信者となってその情報を受け取るという活動を相互に行なっていると考えられる。その際に、誰もが常に同じ程度の積極性で情報共有に関わっているわけではなく、ある特定の参加者がturnを比較的多く取るなどして、情報共有をより積極的・能動的に進めていく場合がある。たとえば、一人の参加者が連続してturnを取り、情報を送信し続けていくような場合がこれに当たる。

本稿では、このような「情報共有の進展に対するより積極的・能動的な関わりかた」を「イニシアティブ」と名付ける。ある参加者がイニシアティブを取るとき、その参加

者は他の参加者よりも当該情報に対して強い関心を持ち、それを共有することに対してより強い動機・必要性を持つのではないかと考えられる<sup>2)</sup>。

## 2. 2 下位の話題とイニシアティブの移動

会話全体が単一の話題によって構成されている場合でも、そこで共有される情報は複数であることが多い。全体の話題は必ずしも一貫したものと限らないが、複数の情報それぞれがある一つの話題を形成し、これらが会話全体の話題を構成する要素となっていると考える。たとえば、会話全体の話題が「食事の約束」であるとき、それが「食事の誘い」「あるレストランの話」「日時の取り決め」などの複数の話題で構成される場合がある。本稿では、このような全体の構成要素となる個々の話題を「下位の話題」と呼ぶ。

下位の話題ごとに共有される情報は異なるため、そこでイニシアティブを取る参加者も異なってくると思われる。すなわち、イニシアティブはある会話において一貫して唯一の参加者によって取られるのではなく、下位の話題を単位として参加者間で移動していくものと考えられる。

## 2. 3 情報共有における送信・受信とイニシアティブ

送信と受信の役割は下位の話題の移行に応じて交替しうる。たとえば、Xが勧誘しYがそれを断るという対話場面を想定すると、「勧誘」という下位の話題ではXが送信者、Yが受信者となり、「断り」という下位の話題ではその逆となる、という送信・受信の交替が予想できる。ただし、送信者がすなわち話し手、受信者がすなわち聞き手というわけではない。あくまで当該の情報を提供する側が送信者、受け取る側が受信者である。

送信者・受信者はどちらの側もイニシアティブを取ることができると考える。ある会話参加者が、自分の持っている情報を相手に伝えたい、あるいは伝えなければならない場合は、情報を送信する側となってイニシアティブを取るであろうし、相手が持つと思われる情報を引き出したい、あるいは引き出さなければならない場合は、情報を受信する側となってイニシアティブを取るであろう。たとえば、上記の「勧誘」「断り」などでは送信者がイニシアティブを取ると考えられるが、「問い合わせ」などの場合には、情報共有の必要性という点から、受信者がイニシアティブを取る可能性が高い。

さらに言えば、送信者と受信者のどちらかの側がイニシアティブを取る場合の他に、

どちらもイニシアティブを取らない（取ることができない）<sup>3</sup>という場合も考えうる。しかしここでは、送信者と受信者のどちらかの側がイニシアティブを取る場合に焦点を絞って考察を行ないたいと思う。

### 3. turn-takingと発話の種類

本稿では、turnを「現発話者が話し始めてから次の発話者が話し始める直前までの現発話者の発話の権利」と定義し、turn-takingを「現発話者と次の発話者の発話権の交替」と考える。

しかし、発話の全てがturn-takingに関わるわけではなく、発話の中にはturnを取ったとは見なせないものも存在する。杉戸(1987)における発話の二分類に従えば、「あいづち的発話」がこれに当たる。あいづち的発話とは、「うん」「あー」「あっそうか」などの応答詞や、「えーっ」「へー」などの感嘆詞を中心とする発話、笑い声など、実質的な内容を積極的に表現する言語形式を含まず、それゆえ聞き手に積極的に働きかけをしないような発話とされる。

これに対し、何らかの実質的な内容を表す言語形式を含み、判断・説明・質問・回答・要求など事実の叙述や聞き手への働きかけをする発話は「実質的発話」と呼ばれる。

turn-takingと上の二種の発話の関係をまとめると、本稿ではあいづち的発話（以下(b)とする）をturnを取る発話とは見なさず、実質的発話（以下(a)とする）間の発話の受け継ぎだけをturn-takingととらえる。

### 4. 発話の下位区分

実際の会話データを分析してみると、送信者と受信者が行なう発話には、その役割によって自ずと発話機能の種類に相違が生じ、また、特に受信者においては、イニシアティブを取るか否かによってもその種類には異なりがある、ということが分かった。本稿では、話し手の担う役割と発話機能の種類との関連性をより明らかにするため、3章の発話の二分類を発話機能の面からさらに下位区分した。具体的にどのような関連性を持つのかについては、6章で実際の会話データに基づきながら見ていくこととし、本章では発話の下位区分と送信・受信、イニシアティブとの関わり、さらにturn-takingとの関

係をあらかじめ述べておくことにする。

#### 4. 1 発話の下位種と送信・受信、イニシアティブとの関係

はじめに、(a)実質的発話の下位種について述べる。

まず、専ら送信者によって行なわれる発話としては、「情報提供」が考えられる。これは、イニシアティブを取る取らないに関わらず、送信の役割を担う場合に主として行なわれる発話である。本稿において「情報提供」の発話と認めるものは、それまで未出の新情報を会話に導入していると考えられるものだけである。

次に、主に受信者によって行なわれる発話であるが、これには大きく分けて二つの種類が考えられ、それらは、イニシアティブを取る場合と取らない場合とで出現の頻度が異なると思われる。イニシアティブを取る場合に出現する頻度が高いものとしては「情報要求」があげられる。これに対し、イニシアティブを取らない場合に出現する頻度が高いものには、「情報確認」があげられる。「情報要求」と「情報確認」の二種の発話の間には、関わる情報において相違がある。「情報要求」は受信者が必要とする新情報の提供を送信者に要求するものであるのに対し、「情報確認」はすでに送信者によって提供された旧情報について、自分の理解をより正確でより詳細なものにするために送信者に確認を求めたり、送信者がこれから行なおうとしている情報提供を助けたり、促したりするものである。これは、情報共有活動が効率よく行なわれるために、送信者の情報提供を援助・補助する発話と見なすことができる。「情報確認」にはこの他に、話し手である送信者の発話への注目表示、そして、情報提供の継続承認の信号を送信者に送り、その情報提供を促すという働きを持つ発話も含まれる。これは、あいづち的発話とほぼ同様の機能であると言える。「情報確認」の発話の具体的なものとしては、話し手である送信者の話し始めた文を聞き手である受信者が話し手に先んじて完成させる「先取り」、送信者が提供した旧情報について誤りを訂正する「訂正」、さらに詳細な説明を求める「説明要求」、聞き取れない・意味が分からないなどの理由のために言い直しを求める「言い直し要求」、送信者の提供した旧情報の語句や文を言い換える「言い換え」、送信者の提供した旧情報の語句や文をそのままくり返す「オウム返し」などがある。

(b)あいづち的発話は、主にイニシアティブを取らない受信者が行なう発話と言える。この発話は、先述のように、実質的な内容を積極的に表現する言語形式を含まず、それゆえ聞き手に積極的に働きかけをしないような発話である。この種の発話は、話し手へ

の注目を表示し、同時に話し手が情報提供することを承認し、継続を促す信号を送る機能を持つと考えられる。

本稿では、以上の四種を発話の下位分類として設定する。そして、このうち、主としてイニシアティブ保持者が行なう情報提供（送信者）、情報要求（受信者）を(a-1)、情報確認（受信者）を(a-2)として区別したいと思う。

#### 4. 2 発話の下位種とturn-takingとの関係

これらの発話の種類別のturn-takingとの関係をとらえてみると、(a-1)情報提供は主にturnの維持に関わる発話であるために連続することが多く、この状況下ではturn-takingは起こりにくいといえることができる。(a-1)情報要求はturnを取る発話であるが、聞き手（送信者）に情報提供を求める機能を持つため、この発話の直後でturn-takingが起こり、送信者による情報の送信が開始されると考えられる。しかし、(a-1)情報要求は受信者がイニシアティブを取る場合の発話であるために、送信者による情報提供は連続せず、またすぐに別の新情報についての情報要求が行なわれ、結果としてturn-takingがかなり頻繁に起こると考えられる。(a-2)情報確認については、これもturnを取る発話であるが、(a-1)情報要求とは異なり、基本的にはturn取りが目的の発話ではないと思われる。むしろ、相手（送信者）にturnを取らせる、あるいは相手のturn継続を促すことを目的とした、相手の情報提供を援助・補助する発話といえる。そのため、この種の発話によってturn-takingが頻繁に起こるといえることはないと考えられる。

#### 5. データについて

6章では実際の会話データに基づき、イニシアティブとturn-takingとの関連を考察していく。本稿での分析に用いるデータは、筑波大学大学院文芸・言語研究科において1995年度開講された「日本語教授法研究(3)」の受講者11名が、各自で会話を収集し文字化したものである。会話参加者の少なくとも一方は留学生（日本語能力が上級程度以上が望ましい）でなければならないという条件の下で、日本語教育にとって有用な会話分析を行なうことを目的として収集されたデータである。

#### 6. 会話データに基づく考察

本章では、会話データ4に基づき、イニシアティブを送信者が取る場合と受信者が取る場合に分けて、イニシアティブとturn-taking、発話の下位種との関連性を考察していく。

## 6. 1 送信者がイニシアティブを取る場合

【会話例1：対面】（安；S／日本・男性・23才、J／韓国・男性・28才・日本語学習歴2年）

----- 下位の話題1；恋愛の相談 -----

《送信者Sがイニシアティブを取り、情報を提供》

（前部分略／下位の話題1の開始からここまでのSの発話（36-51 S）は全て(a-1)情報提供、Jの発話（37-49 J）は全て(b)あいづち的発話）

- |      |  |                   |
|------|--|-------------------|
| 52 J | ちょちょっと待って。   | ┌ …(a-2)情報確認・説明要求 |
| 53 J | あのう、バスケットボールができそうな人、                               | └                 |
| 54 S | 一緒に、   | ┌                 |
| 55 J | うん。 …(b)   |                   |
| 56 S | バスケットボールとか、  | └ …(a-1)情報提供      |
| 57 J | うん。 …(b)   |                   |
| 58 S | できて、一緒にこう(0.8)なんてゆうんですかね                           | └                 |
| 59 S | (0.8)遊べそうな(0.3)楽しくバスケットボールとかができ<br>そう、できるような人がいいと、 | └                 |
| 60 J | じゃ、それで、  | ┌                 |
| 61 S | はい。 …(b)   |                   |
| 62 J | 自分がだめそうだってゆうのは、                                    | └ …(a-2)情報確認      |
| 63 S | は。 …(b)  |                   |
| 64 J | 結局、一緒に遊べない、  | └                 |
| 65 S | たぶん。   | └                 |
| 66 J | とゆうこと？   | ┌                 |
| 67 S | はい。  |                   |
| 68 J | //なんで？ …(a-1)情報要求                                  |                   |
| 69 S | 一緒に遊べなそうだから、                                       | └                 |
| 70 J | うん。 …(b)   | └ …(a-1)情報提供      |
| 71 S | あのう(0.3)、あなたとは付き合えないかなあと、                          | └                 |
| 72 J | 彼女はそう//ゆうふうにゆった？ …(a-2)情報確認・先取り                    |                   |
| 73 S | ははい(0.5)。  |                   |
| 74 S | 試験もありますから今年。                                       | ┌                 |
| 75 J | うーん。 …(b)  |                   |
| 76 S | 試験もあるんで、   | └ …(a-1)情報提供      |
| 77 J | うーん。 …(b)  |                   |
| 78 S | そんなとこじゃないぞっと、                                      | └                 |
| 79 J | うーん。 …(b)  |                   |
| 80 S | そうゆうことだと思っんですけど、                                   | └                 |
| 81 S | (0.2)秋まで待ったらどうですかと聞いたんですよ。└                        |                   |
| 82 J | あー、なるほどね？ …(b)                                     |                   |
| 83 S | だめかも、でももっといい人見つけなっと言われちゃって。 …(a-1)情報提供             |                   |







(前部分略)

- 24 E 最初// (一) スイス// スイス// …(a-1)情報提供  
25 S //うん //スイス? //うんうんうん …(b)  
…(b) …(a-2)情報確認・オウム返し  
26 E スイスを (一) スイスで// 友達の家 (//に?) 泊まった。 …(a-1)  
情報提供  
27 S //うん //うん …(b)  
28 S あー、友達のうち [に] いたんだ。 …(a-2)情報確認・オウム返し  
29 E ブラジル人なー。 …(a-1)情報提供  
30 S あ、ブラジル人の// うんうんうん …(a-2)情報確認・オウム返し  
31 E //うん …(b)  
32 E でも、あのースイスで勉強してるんです。 …(a-1)情報提供  
33 S あ、留学してるん//だ。へえー …(a-2)情報確認・言い換え  
34 E //うん、お父さんも働いているんですけど。  
…(b)+(a-1)情報提供  
35 S あー、スイスで? …(a-2)情報確認  
36 E うん、スイスで。 …(a-1)情報提供  
37 S へえー …(b)  
38 E そう、一緒に//その友達と一緒に//あ、ローマ? …(a-1)情報提供  
39 S //うん //うんうん …(b)  
40 S ローマに行ったの? …(a-2)情報確認・オウム返し  
41 E はー、その後//N a p o r i s …(b)+(a-1)情報提供  
42 S //うんうんうん …(b)  
43 S ナポリ?うんうんうん …(a-2)情報確認・オウム返し  
44 E ナポリ。// //その後A t h e n s // //ギリシャ  
…(a-1)情報提供  
45 S //うんうんうん //アセス?  
…(b) …(a-2)情報確認  
・言い直し要求  
46 S あ、ギリシャにもいったんだー。 …(a-2)情報確認・オウム返し

(後部分略)

会話例3では、受信者Sの発話はほとんど全てが(a-2)情報確認の発話であり、その中でもとりわけオウム返しの発話が多いことが特徴的である。ここでおもしろいと思われるのは、Sの(a-2)情報確認の発話に続くEの発話は、それに対する応答はないままで(29E)、あるいは(b)あいつち的発話を行なっただけで(31,34,41E)、すぐ次の新情報提供に移っている点である。これは、情報確認、特にオウム返しが受信者自身の発話への応答を要求するものではなく、あくまで送信者の情報提供を促す機能を持つ発話であることを示しているのではないかと考えられる。

## 6. 2 受信者がイニシアティブを取る場合

【会話例4：電話】（林3；S／台湾・女性・24歳・来日3年、M／日本・女性・年齢不明）

----- 下位の話題；入学願書の問い合わせ -----

《受信者Sがイニシアティブを取り、情報を要求》

01M: F S 大学大学院です。

02S: あ、大学院ですか？

03M: はい。

04S: すみません、ちょっとお聞きしたいんですけど。

あの、ことし、留学生の大学院の入学願書、出てきましたか。 …(a-1)情報要求

05M: えーと、8月ぐらいに出来ます。 …(a-1)情報提供

06S: は、はち月くらい、出て、来るんですか。 …(a-2)情報確認

07M: はい。 …(a-1)情報提供

08S: あの、じゃ、去年の古い願書、ありますか？ …(a-1)情報要求

09M: え、あります。 …(a-1)情報提供

10S: ありますー。 …(a-2)情報確認

11M: はい。 …(a-1)情報提供

12S: じゃーあの、もし、取りにいけない、

13M: はい。 …(b) | …(a-1)情報要求

14S: もらえませんか。 |

15M: え、大丈夫です。 …(a-1)情報提供

16S: 大丈夫//ですか。 …(a-2)情報確認

(後部分略)

例4では、例1-3での受信者とは対照的に、受信者Sによる(a-1)情報要求の問いかけが畳み掛けるように行われ、会話が進められている。これは「入学願書の問い合わせ」という話題が、受信者Sにとって共有の必要性がきわめて高い情報であるためと解釈できる。受信者の側が、相手の持つ情報を引き出す必要性をより強く持つような状況では、受信者がイニシアティブを取り、質問などによって相手の送信を要請（促進）し、情報共有を進めていくのではないかと思われる。

turn-takingとの関係を見てみると、送信者がイニシアティブを取るときとは異なり、受信者がイニシアティブを取るときはturn-takingが頻繁に起こるようである。これは、受信者の(a-1)情報要求の発話と、送信者の(a-1)情報提供の発話が交互に行われているためである。turn-takingの生じ方は、イニシアティブを送信者が取るか、受信者が取るかによって、対照的な相違を見せると言ってよいのではないだろうか。

## 7. おわりに

以上のように、イニシアティブとの関係からturn-takingをとらえることによって、

turn-takingの分布の違いとそれが生じる要因について明らかにすることができたと考える。また、イニシアティブと発話機能との間には一定の関連性が見られ、これはturn-takingの生起を予測する手がかりの一つになるのではないかと思われる。これらのことから、turn-takingの考察においてイニシアティブの観点が有効であると主張できるのではないだろうか。

イニシアティブと下位の話題の認定について詳しく論じることはできなかったが、現段階では認定の基準が主観的であることは否めない。イニシアティブ保持の特徴としては、turnが相対的に多いあるいは長いこと、主として新情報に関わる発話を行なうことといった点を、また、下位の話題の移行点における特徴としては、情報の送信者・受信者の交替、あいづち的発話の連続、長いポーズといった現象を指摘することもできるが、これは必要十分条件とは言えず、会話の構造面から客観的に明示できるような基準を設定することが今後の課題である。

#### 【注】

1. すでに杉戸(1984)、杉戸、沢木(1979)で「イニシアティブ」の術語が用いられているが、これは買物行動自体の主導権を指すものであり、情報共有活動の観点から規定した本稿でのイニシアティブとは基本的に異なると思われる。
2. この他の要因として、参加者同士の親疎関係、上下関係なども考えられるが、ここでは考慮に入れない。
3. 参加者が当該情報に対して同程度に消極的あるいは積極的な場合は、ともにイニシアティブを取らない、あるいは取るができないという状況も生じると考えられる。
4. データ中の表記のうち、「//」は発話の重複、「(数値)」は沈黙の秒数、「？」は上昇音調、「[音声・語句]」は明確に聞き取れない音声・語句、を表す。データの先頭に、データ提供者及びデータ番号、インフォーマントについての説明(国籍・性別・年齢・日本語能力またはそれに準ずるものの順)を付した。なお、下位の話題、イニシアティブ、発話機能についての記述は筆者が加えたものである。

#### 【参考文献】

- (1) ボリー・ザトラウスキー(1993)『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』くろしお出版
- (2) 佐久間まゆみ(1987)「[文段]認定の一基準(I)—提題表現の統括—」文藝言語研究言語編11
- (3) \_\_\_\_\_(1990)「[文段]認定の一基準(II)—接続表現の統括—」文藝言語研究言語編17
- (4) 杉戸清樹(1987)「II分析編 2.2. 発話のうけつぎ」国立国語研究所『談話行動の諸相 座談資料の分析』三省堂
- (5) 杉戸清樹、沢木幹栄(1979)「言語行動の記述—買物行動における話しことばの諸側面—」南不二男編『言語と行動〈講座言語第3巻〉』大修館書店
- (6) 杉藤美代子(1993)「談話分析・発話とポーズ」日本語学12-4
- (7) Levinson, S.C. 1983. *Pragmatics*. Cambridge. Cambridge University Press